令和６年度　大分県学力定着状況調査の結果と対策　　挟間中学校　　２年

※目標値、県平均との比較を◎（高い）〇（標準）△（課題）で表しています。

　　　　　　　　　　　　　目標値比　県比

【国語科の分析結果と改善のポイント】

・全領域・観点共に目標値を大きく上回っ　ている。

・育成したい資質・能力を明確にした「め　あて」の提示、「振り返り」の実施を継続　していく。

・既習学習の確認のための継続した小テス　ト（単元テスト）の実施も行っていく。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 国　　語 | 教科全体正答率 | ◎ | ◎ |
| 知 識 正 答 率 | ◎ | ◎ |
| 活 用 正 答 率 | ◎ | ◎ |
| 観点別正答率 | 知識・技能 | ◎ | ◎ |
| 思考・判断・表現 | ◎ | ◎ |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ◎ | ◎ |

　　　　　　　　　　　　　目標値比　県比

【社会科の分析結果と改善のポイント】

・全領域・観点共に目標値を大きく上回っ　ている。

・「でそ単」の取組は知識の定着に大いに意　味があった。

・授業においては、グループワーク、教え　あい学習の充実、考えたくなる発問の工　夫を行っていく。

・家庭学習では、毎日ノートや自主学習の　取り組み内容について指導を行う。

　　　　　　でそ単の活用

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 社　　会 | 教科全体正答率 | ◎ | ◎ |
| 知 識 正 答 率 | ◎ | ◎ |
| 活 用 正 答 率 | ◎ | ◎ |
| 観点別正答率 | 知識・技能 | ◎ | ◎ |
| 思考・判断・表現 | ◎ | ◎ |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ◎ | ◎ |

　　　　　　　　　　　　　目標値比　県比

【数学の分析結果と改善のポイント】

・思考・判断・表現の観点以外は、目標値　を上回っている。

・基礎基本の問題を繰り返し解けるように　課題プリントを家庭学習で取り組ませる

・単元の終わりに文章題を中心に活用問題　を解く授業を実施する。

・単元テストや定期テストで、全国学力テ　ストなどの活用問題を利用し、様々な活　用問題を解く機会を増やす。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 数　　学 | 教科全体正答率 | ◎ | ◎ |
| 知 識 正 答 率 | ◎ | ◎ |
| 活 用 正 答 率 | 〇 | 〇 |
| 観点別正答率 | 知識・技能 | ◎ | ◎ |
| 思考・判断・表現 | △ | 〇 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ◎ | ◎ |

令和６年度　大分県学力定着状況調査の結果と対策　　挟間中学校　　２年

※目標値、県平均との比較を◎（高い）〇（標準）△（課題）で表しています。

　　　　　　　　　　　　　目標値比　県比

【理科の分析結果と改善のポイント】

・全領域・観点共に目標値を上回っている

・単元プランを見直し、重点項目を押え、　各章の終わりに単元テストを実施する。

・苦手な生徒への小テストの繰り返し学習　やパフォーマンステスト（基本的な観察　実験の器具の使用法）など個別の支援指　導を実施する。

・すべての子どもが活動参加できるよう映　像など視覚的な支援を活用する。

○自分の考えを伝える場や対話する場を授業に仕組んでいく。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 理　　科 | 教科全体正答率 | 〇 | 〇 |
| 知 識 正 答 率 | ◎ | 〇 |
| 活 用 正 答 率 | 〇 | ◎ |
| 観点別正答率 | 知識・技能 | ◎ | 〇 |
| 思考・判断・表現 | 〇 | ◎ |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 〇 | ◎ |

　　　　　　　　　　　　　目標値比　県比

【英語の分析結果と改善のポイント】

・全領域・観点共に目標値を上回っている

・小テストや繰り返し練習などを通して、　語彙の習得をさせる。

・「めあて」「振り返り」を意識した授業展　開を行う。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 英　　語 | 教科全体正答率 | 〇 | 〇 |
| 知 識 正 答 率 | 〇 | ◎ |
| 活 用 正 答 率 | 〇 | 〇 |
| 観点別正答率 | 知識・技能 | ◎ | ◎ |
| 思考・判断・表現 | 〇 | 〇 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 〇 | 〇 |

【生徒質問紙より（分析結果と改善策）】

【自己認識】・「自分にいいところがある」(本校83.7 県68.4 国68.1)等、自己肯定感はある　　　　　　　が友だちとの関わりにおいて自信のなさがみられる

【社会性】　・公共のマナーや礼儀が身についている。一方で自分の意思を表現することに　　　　　　　課題が見える。自分の考えをまとめ、発表させる場面の設定を意識していき　　　　　　　たい。

【学級環境】・責任感や規範意識が高いことがわかる。また、多くの生徒が自分の学級を居　　　　　　　心地の良い場所と感じている。少数ではあるが、クラスに心の居場所を持て　　　　　　　ない生徒がいるので定期的な面談を行い、個別指導・支援を行う。

【生活・学習習慣】・基本的な生活習慣が確立している生徒が多い。全国に比べ平日、休日　　　　　　　の家庭学習の時間、自分で計画を立てて勉強する、予習復習をして授業に臨　　　　　　　む生徒が少ない傾向がある。家庭と連携した取組を計画している。